

4月18日(木)お昼の放送の校長の話

昨日の夜遅く、11時14分頃、大きく揺れる地震が起こりました。飛び起きた人もいるかもしれません。

日本では、今年の元旦、能登半島地震と言われる大地震がありました。240人以上の人がお亡くなりになりました。

地震は、いつ、どこで起きるか分かりません。「明日の何時何分に起こります」という予告はありません。いつ起こるか分かりません。授業中か、休憩時間、登校中、下校中、夜中かも。そして、教室にいるか体育館にいるか、トイレにいるか、運動場にいるか・・・自分がそのときにどこにいるか分かりません。家にいるかもしれません。

昨年度の3学期、授業中に地震が起こりました。大竹小学校の多くの方が避難訓練などで学習したことを生かして、素早く正しく上手に避難できたと聞いています。避難のルールを確認しておきます。

地震が起こった時に、いつ、どこにいても、どのように行動したらよいか、役立つルールを知っておくことが大切なのです。

安全行動が3つ、ありました。

- 1 姿勢を低くする（しゃがむ） ※ゆれてこけないように。
- 2 体や頭を守る（かくれる） ※机の下などに、何かで頭を守る
- 3 揺れが収まるまでじっとする（待つ） ※1分くらい

もう1つ、危ないものから離れてしゃがむことです。例えば、ガラスの窓、天井の電気など上から落ちてくるものがないところで。

学校で651人の児童の皆さんの中で、亡くなった人が一人だけで良かった、ということにはなりません。一人残らず全員が助からなければいけません。

もしものときに、正しく避難できるように、「しゃがむ、かくれる、まつ、プラス危ないものから離れる」このルールを覚えておきましょう。